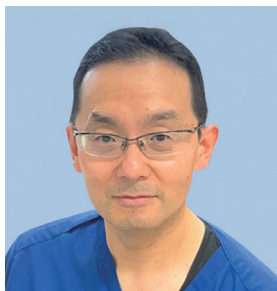




消化器内科部長あいさつ



消化器内科部長
齊藤 勝

当院における内視鏡診療の現状

新型コロナウイルス感染患者の入院受け入れが当院でも開始されました。それに伴い通常入院ベッド数が減少し、多少ではありますが日常診療に支障を来している現状です。内視鏡診療に関しては外来業務が中心ではありますが、感染対策を十二分に講じて継続しております。今回は当院における内視鏡の現状についてご紹介します（コロナ禍前、2019年の実績です）。

まず、上部消化管内視鏡検査は延べ

3,854 件施行しました。内、健診部門が 2,577 件を占め、その約半数は経鼻内視鏡で、一般診療でも経鼻内視鏡や鎮静化内視鏡を選択する機会が増加しております。

治療内視鏡においては出血性病変に対する止血術、アニサキスや薬剤 PTP シートの異物除去等の緊急内視鏡、食道癌、胃癌等による消化管狭窄症に対するステント留置術、経口摂取不能症例に対する胃瘻造設等を行っております。粘膜内癌に対する内視鏡治療は行っておらず、高度専門施設に紹介しております。

次に、下部消化管内視鏡検査は延べ 642 件施行しました。内、97 件はポリペクミーや粘膜切除術等の治療内視鏡で、他にも憩室出血等に対する止血術、進行性大腸癌による腸閉塞に対する経肛門的イレウス管留置やステント留置も行っております。広範囲の粘膜内癌や陥凹性病変について高度専門施設に紹介する症例が多くなっています。上下部共に手術適応症例に関しては外科と連携し適切に対応しております。胆膵内視鏡は延べ 60 件施行しました。ほとんどが総胆管結石や悪性胆道狭窄による閉塞性黄疸や胆管炎の症例です。そのため、膵胆道

造影に留まらず超音波内視鏡や生検、細胞診等の精査、採石術や胆道ドレナージ術等の治療内視鏡を伴うケースが大多数を占めます。膵癌や胆道癌は増加傾向にあります。予後不良な症例や高齢者での発症例が目立ち、その後の対応に苦慮することも少なくありません。手術適応症例や治療困難症例に関しては、高度専門施設にお願いしご対応頂いております。当院では、ほぼ全ての消化器系疾患に関して初期対応可能な状態ではありますが、周辺施設のご協力を仰ぎながら診療にあたっている次第です。

内視鏡診療で地域診療に貢献！

最後に、気管支鏡検査は延べ 90 件施行しました。山縣呼吸器内科部長が着任して以降、周辺施設からの呼吸器疾患紹介患者は増加傾向にあり、今後も地域診療に貢献できる分野であると思います。ピロリ菌除菌等により胃癌は減少傾向にありますが、肺癌、食道癌、大腸癌、膵胆道癌等は増加の一途にあり、内視鏡診療は必要不可欠な診療部門です。今後も地域社会の医療、健康、福祉に貢献できるように、スタッフ一同励んで参ります。

看護部部長あいさつ



看護部 部長
がん性疼痛看護認定看護師
小川 ひとみ

すべての人を、笑顔にするために

令和 3 年 4 月から看護部長に就任しました小川です。

当院の看護部は『すべての人を、笑顔にするために』という病院理念のもと、いわき市の南部地域にある中核病院として、患者さんに寄り添い、安心・安全な看護、介護の提供を目指しております。

少子高齢化社会という社会情勢から、私たち看護職には、今後ますます幅広い役割を担っていくことが期待されています。当院を受診される方は勿来、田人、遠野地区の方のみならず隣県からの受診者もいます。その中には、高齢者のみの世帯や高齢者の独居といった背景の方が目立つようになってきています。そのような地域環境の中で、看護部では専門職として、地域住民や受診者の個別性や複合的なニーズに応えるために、看護・介護の質の向上に向けた取り組みを継続して行っております。

長引くコロナ禍で思うような研修ができない状況ではありますが、e-ラーニングシステムを活用した学習や今年度はアサーティブ研修も取り入れ、スタッフが自己研鑽できるようにサポートしています。また個人の専門性を高める支援として、認定看護師や実習指導者研修、NST 専門療法士等の資格取得に対する援助も行っています。

働く職員を大切に考え、ワークライフバランスを重視した「働きやすい職場環境づくり」から「働き続けられる職場」「看護職から選ばれる病院」となるように、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

今後とも皆さまのご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

新体制の看護管理者ご紹介



令和3年4月に看護部が新体制となり約半年が経ちました。

長期化する新型コロナウイルスの影響を受け、当院の看護部でも様々な対応が必要とされています。超高齢化社会において看護師・介護士に求められる役割は多様化し、入院中の患者さんの看護・介護のみならず、地域住民に向けた疾病の予防や指導といった役割も大きくなっています。その代表的なものが新型コロナウイルスのワクチン接種です。当院でも6月から市民の高齢者を対象にしたワクチン接種が始まり、現在も接種を続けています。

そのような状況の中で、私たち看護管理者が一番苦慮しているのは「ヒト」の管理です。

組織の重要な資源である「ヒト」は一人ひとりがかけがえのない存在であり、「ヒト」の力を合わせることで大きなパワーが生まれ、良質な看護・介護の提供

につながると考えます。

これからも「働きやすい職場環境」「働き続けられる職場」づくりを目指して、「ヒト」を大切に思い、看護部全体が力を合わせてこの困難な状況を乗り越えていけるよう努力していきたいと思っています。

看護部部长 小川ひとみ



職域ワクチン接種の看護師対応の様子

アサーティブ研修の様子



認定看護師紹介



摂食・嚥下障害看護認定看護師
吉田 厚子

病院だけでなく、施設や在宅でも「食べる」ことが病気や加齢、認知機能の低下によって困難な方が少なくないと思

ます。摂食嚥下とは、簡単に「食べる」「飲み込む」ことをいいます。しかし、病院だけでなく、在宅・施設で生活されていても徐々に食事が減り、脱水や誤嚥、窒息などの命に関わる状態に陥る可能性があります。また、口腔内のトラブルから食形態が合わないことで食事量の減少や誤嚥・窒息といったトラブルに繋がることもあります。

口腔内の環境を整えながら、皆さんの「口から食べたい」という思いを支えられるよう、安全に一人でも多くの方が「食べる楽しみ」を取り戻すためのサポー

トを目指したいと思います。「口からおいしく食べたい」と思うことは、誰しもが持つ欲求の一つです。「すべての人を、笑顔にするために」という当院の理念にもあるように、摂食・嚥下障害看護認定看護師として、「食べる」楽しみを感じてもらえるように、また、食べることで、笑顔で過ごせるように、病院だけでなく、退院した後の在宅、施設の方々など地域の人ともつながり、少しでもお力添えできればと思います。

ご心配なことや困りごとがありましたらお気軽にご相談ください。



認知症看護認定看護師
鈴木 真由美

2020年12月に認知症看護認定看護師の資格を取得致しました。現在の日本は超高齢社会となり、それに伴い65歳以上の認知症を持つ人も年々増加してい

る現状があります。いわき市南部の医療を支える一端を担う当院でも、認知症高齢者の方が身体疾患の治療で入院することが多くなってきています。その入院をきっかけとして、認知症の症状が出現したり進行したりするために、身体的治療を安全に受けられない場面があります。

また、コロナウイルス感染予防対策で面会制限となり、医療を取り巻く環境は大きく変化しており、以前とは違う入院生活の中で、認知症をもつ人やそのご家族が安心して治療を受けられるように、より一層のケアの工夫が必要とされています。

そのため、院内では勉強会を計画し、認知症ケア委員会の活動を通して、認知症ケアの向上を目指しています。

今後は、認知症と一緒に生きていける社会を実現させるために、入院生活と退院後の生活をつなぐための支援として、地域の施設などへ伺い、認知症についての勉強会を開催することができればと考えています。認知症をもつ人も家族も、住み慣れた自宅や地域で再び自分らしく生活するための支援を行っていきたいと思います。

アサーティブ研修について

アサーティブとは「相手を尊重しつつ自分の権利も尊重し、誠実に、率直に、そして対等に自己表現すること」を意味します。

看護部をはじめとし、診療技術部門、事務部門など、立場の違う同僚と率直・対等にコミュニケーションを取ることが

できることによって、横の繋がりは太く、強くなり、チーム医療としての機能が向上し患者様、利用者様へより良いサービス提供の実現と職場環境の改善を目指しています。

「すべての人を、笑顔にするために」日々精進して参ります。



連携のつどいおよび合同研修会

第20回いわき南部地区在宅医療・介護多職種連携のつどいおよび合同研修会の報告

コロナ禍でしばらく開催できなかった連携のつどいが、このたび 2021 年 8 月 26 日(木)に Microsoft Teams を活用しリモート開催することができました。

はじめに「在宅における感染対策」と題して当院の緑川院長の講演が行われ、次に事前に医療介護関係者にアンケートを行っていた「感染対策について工夫して

いることや困っていること」について、すいとぴー介護ステーション勿来の三浦隆ケアマネージャーとアイン薬局いわき植田店の藤田雄一薬剤師にお話しいただきました。非常に有意義な研修会となりましたことをご協力いただきました皆様により感謝申し上げます。



緑川院長



左から三浦氏、藤田氏

～ 健康管理センター ～

感染対策により、生活習慣病のリスクが高くなっています

新型コロナウイルスなど感染対策は大切ですが、移動や人との接触を控えることで活動量が減り、運動不足やストレスで生活習慣病のリスクが高まる恐れがあるのをご存じでしょうか？ 生活様式が変化し、体重が増えてしまった、健診結果が例年と比べ悪くなっている方も見受けられます。感染対策と生活習慣病予防を両立できるとよいですね。



生活習慣病を防ぐために気をつけること

①肥満改善・予防しましょう

肥満は高血圧・高血糖・脂質異常などの生活習慣病の引き金になります。動脈硬化も進んでしまいますので、早めに対策をしましょう。

②ストレスを上手に解消しましょう

ストレスにより、食べ過ぎてしまったり、眠れなくなる方もいます。ご自身にあった解消方法をみつけましょう。

生活改善のポイント

- 野菜から食べる。
- 朝・昼食をきちんととり、夕食は少なめに。
夕食時間が遅い方は太りやすいので要注意！
- 外食の時は、品数の多い定食ものを選ぶ。
- 活動量が減った人は、食べる内容を見直し、量に気をつける。
- お酒は適量を守り、休肝日を設ける。
- 今より歩く時間を毎日 10 分 (1,000 歩) 増やすなど、意識して体を動かす。
- 2～3 階であれば階段を使う。
- しっかり睡眠をとる。
- 寝る前は、パソコンやスマホなどを触らない。

定期的に体重を測りましょう！



健康管理センターでは、換気・消毒など感染症対策を十分とつたうで、健診を実施しております。気になる検査、健診がある方は、お電話にてご相談ください。年に 1 回は健診を !!

地域連携支援室移転のお知らせ

2021 年 9 月 25 日に
A 棟 1 階整形外科外来正面
に移転いたしました。
患者サポート窓口となっておりますので、お気軽にお立ち寄りください。



月曜日～金曜日 8:30～17:00
土曜日 8:30～13:00
(第 2 土曜日を除く)

*日曜祝祭日・年末年始を除く

TEL. 0246 - 62 - 3178 (直通)

FAX. 0246 - 62 - 2035

地域連携支援室

- TEL. 0246 - 63 - 2181 【代表】内線 2161
- TEL. 0246 - 62 - 3178 【直通】
- FAX. 0246 - 62 - 2035
- E-mail renkei@kureha-hosp.com
- <https://www.kureha-hosp.jp/>

■発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院
〒974-8232 いわき市錦町落合1-1
TEL. 0246-63-2181
FAX. 0246-63-0552
URL <https://www.kureha-hosp.jp/>
発行人 田中 稔
編集 地域連携支援室